

株式会社P.O.イノベーション DX戦略 2023

日 付:6月14日

社 名:株式会社P.O.イノベーション

代表名:代表取締役 見木太郎

①DXに関するトップメッセージ

【DXに取り組む背景】

義肢装具業界は、医療業界の中でもデジタル化が遅れている業界です。そのため、残業問題や非効率な業務体系などの課題を抱えています。当社では、業界に先駆けてDXに取り組む、これらの課題を解決したいと考えています。

私たちは、デジタルが医療業界に大きな変革をもたらす可能性を秘めていると信じています。デジタル技術やデータを活用することで、現場の生産効率や医療の質と効率を向上させることができます。また、デジタル技術は働くスタッフの負担を軽減し、より良い環境で働けるようにすることができます。当社は、デジタル技術を活用して医療業界の課題を解決し、より良い医療の実現に貢献していきたいと考えています。

【社長が目指すビジネスモデル】

当社は2021年より、グーグルクラウドパートナーとしてデジタル技術を導入し、社内の業務改善に取り組んできました。自社内で開発したシステム、運用経験と改善ノウハウを活かして新規事業としてデジタル関連事業に参入し、医療業界及び同業者向けのクラウドサービスを開発・販売し、義肢装具業界のデジタル化を促進します。また、病院向けのデジタルソリューションも提供し、医療の質向上に貢献してまいります。

②経営理念・経営ビジョン

【経営理念】

私たちはお客様によるこばれる仕事を通じて社会に貢献し、あわせて、全員が成長する経営を行います。

【経営ビジョン】

私たちは、これまで培ってきた義肢装具や車いすの知識と技術を活かし、「新しい技術」と「人づくり」をもってお客様のお困りごとを解決し笑顔をお届けし、自社や医療業界で働くスタッフがよりいきいきと働ける環境の実現を目指し、社会に貢献してきたいと考えています。

そのために、自社内のノウハウがつまった現場目線の使いやすいクラウドサービス事業を立ち上げ、デジタル技術を使った安心で安全で快適な製品・サービスを提供することにより、義肢装具業界や医療業界で最も高い生産性を保持し、高品質の製品・システム・サービスを提供する 企業となることを目指します。

③成長マトリクス

私たちは、DXの取り組みによって以下のようなビジネスモデル変革を実現します。

既存商品・サービス

新商品・サービス

既存市場

①現在の事業

- ▼岩手県内
義肢装具の製造販売業
- ▼東北地方
デジタルサービス

③製品開発

- ▼デジタルサービスの提供
衛生管理アプリ
同業者向け社内アプリ

新市場

②市場開発

- ▼デジタルサービスの全国展開
同業者、医療機関へ

④多角化

- ▼製造業のみからSaaS事業者へ
医療機関向けサービス
同業者向けアプリの展開
- ▼セミナーや
コンサルティング事業

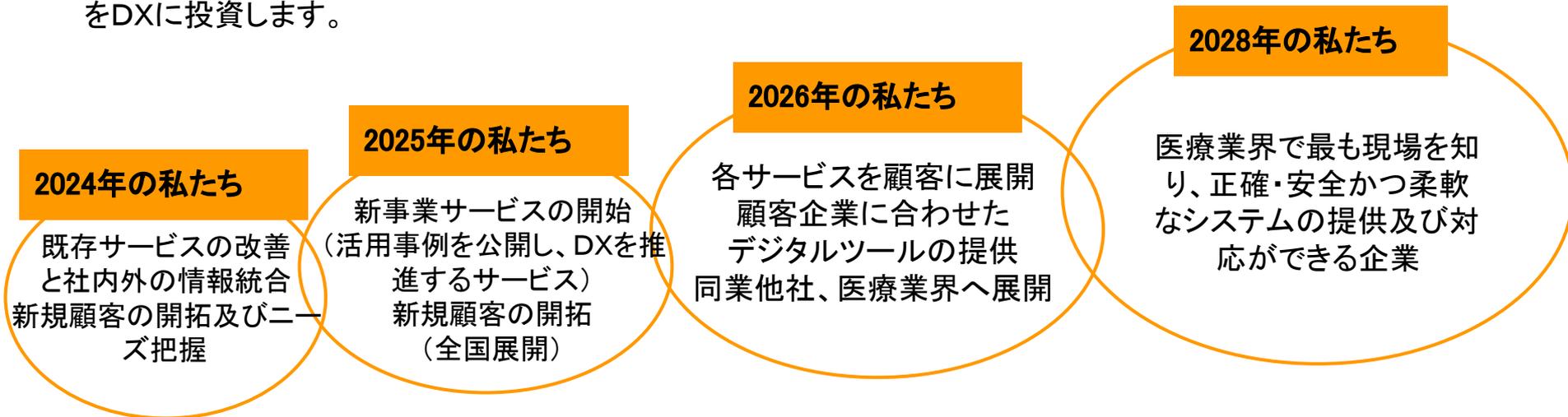
医療機関
岩手県内のお客様

同業者
全国のお客様

④DX戦略(DXステップ)

経営ビジョン達成のために、これまで展開してきた「装具オーダーリングシステム」「装具製作企業向けSaaS」「衛生管理アプリのサービス内容および業務プロセス」をDXプロジェクトとしてPDCLAサイクルで改善します。また、その改善事例を公開し、同業者や医療業界にDXを推進する新事業サービスを5年後までに展開します。

そのために、下記のようなステップでデジタル化やデータ活用、社内変革を推進し、毎年売り上げの1%をDXに投資します。



④DX戦略

経営ビジョン達成のために、義肢装具業界で最も高い生産性を保持し、高品質の製品・システム・サービスを提供する会社になります。

そのため、以下のDX戦略に取り組みます。

戦略①分析: デジタルサービス商品のプロビジョンデータ分析からさらなるニーズの発掘

戦略②正確: 要件定義の充実・デジタルツールでプログラムミスの確認

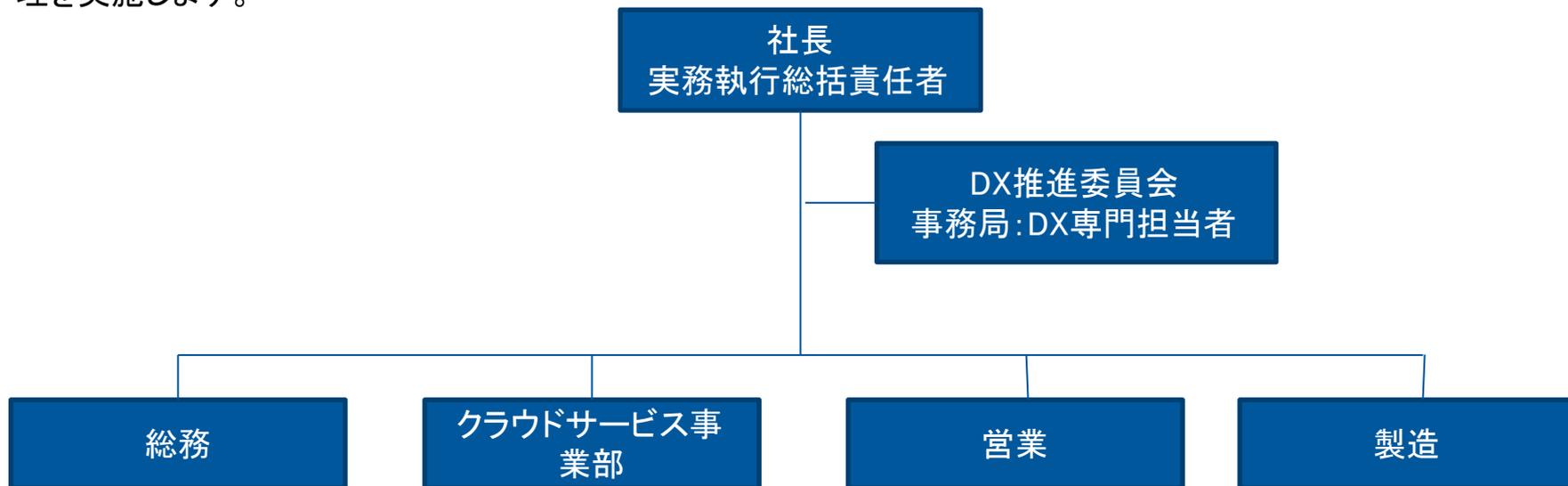
戦略③安全: 情報共有・環境整備・セキュリティの強化・デジタル人材の育成

戦略④柔軟: お客様の声やクレーム数の分析により、製造にもITにも精通した

マルチキャストを創出し、一人ひとりの能力を向上

⑤体制・人材育成

当社にDX推進委員会を設置し、DX実務執行総括責任者(社長)を中心としてDX専門担当者を配置し、各部門長を構成員としてDXを推進します。定着した後は、専任担当者から各担当部署に横展開し、デジタル技術を使ったお客様への素早く安心安全で快適なサービスを提供およびデジタル人材の育成および資産管理を実施します。



⑥ デジタル技術、環境整備

当社は、DX推進のために下表のデジタル技術の導入や環境整備に取り組みます。

▼既存システム

デジタル技術	取り組み内容	いつまでに、何を？	担当
Google Workspace	重複しているアプリケーションの見直し、データ活用	2025年までに完了	総務課長
Chatwork	内部・外部セキュリティ、文書管理の見直し	2026年までに完了	総務課長
O2ライト	オンプレミスの基幹システムのため、災害時にむけてバックアップされたデータの復元訓練	2025年までに完了	総務課長
装具オーダリングシステム	アクセスデータ、受注率等のデータ活用、セキュリティ	2026年までに完了	総務課長
衛生管理アプリClean Apps	稼働率を計算し、稼働していないフォームのURLを整理する	2027年までに完了	総務課長
製造ポイント人事評価システム	ポイント計算のアルゴリズムの見直し	2025年までに見直し	製造課長
リアルタイム受注システム	入力項目の見直し、選定	2026年までに見直し	製造課長

▼新システム

新システム	取り組み内容	導入予定時期	担当
不具合案件情報共有システム	新システムの開発	2025年までに完成	製造課長
装具画像判別システム	新システムの開発	2025年までに完成	製造課長

⑦数値目標(KPI)

当社は、DX推進達成状況を測る指標として下記を定めます。毎年、年2回(5月、11月)に実行計画アセスメントをおこなった上で、その結果を反映し各チームで実行計画を見直し、月一回評価をおこないつつながら実行計画目標を達成できるように工夫していきます。

区分	取り組み内容	いつまでに、何を？	目標値(KPI)
ビジネスモデルを革新 =戦略①分析	1. 新規事業売上の向上	2025年までに新規事業を立ち上げる	2028年新規事業の売上構成比25%
顧客ニーズの把握 =戦略②正確	2. 新規顧客の獲得	2026年までに新規顧客を獲得する	2026年30件
	3. 顧客満足度の向上	2026年までに顧客満足度を向上させる	2026年クレーム0件達成
バックヤード改革・新規事業構築 =戦略③安全	4. 新規事業の構築	2024年着手、2024年開始 SaaS事業の展開	2025年PDCAミーティング2回
	5. 既存サービスの改善	2025年までに、DX大会で改善事例を年に30件発表する	2025年 30件
デジタル人材の育成 =戦略④柔軟	6. DX人材の育成	2025年までにデジタル人材を育成する	2025年 10名
	7. データ解析力の向上	2024年までにルッカースタジオを全員が使えるようにする	2026年までに社員受講率100%
	8. モチベーションアップの教育	年1回、モチベーションアップ教育を実施する	全社員が年1回教育を受講する